



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 29 年 12 月 25 日

第 27 号

地域に期待され、頼りにされる市高生 ～社会の一員としての活躍～

今年もあと1週間。そして今日はクリスマス。2学期も終業式を迎え、気持ちに余裕がある今日のクリスマスを楽しみにしている人も少なくないと思います。

今年も多方面で市高生が活躍しました。特に、地域では「市ケ尾ユースプロジェクト」（まちの未来づくりプログラム）をはじめ、新たな活躍の場を地域の皆様からたくさんいただきました。夏以降の新たな取組だけでも、7月には鉄（くろがね）小学校のおたのしみ会（ジャグリング部、ダンス部）、市が尾商栄会サマーフェスティバル（例年参加しているジャグリング部に加え、新たに放送委員会と書道部が参加）、10月には青葉警察署「安全安心まちづくり旬間」出陣式（ジャグリング部、ダンス部）、「横浜マラソン2017」ランパスボランティア（陸上部・ボランティア委員会）、「美しが丘地区センター祭り」（放送委員会）、つい先日（12月20日）の緑法人会主催「CHARITY XMAS CONCERT IN 青葉公会堂」（ジャグリング部、ダンス部、吹奏楽部）等々、枚挙にいとまがありません。今や市高生は、地域に期待され、頼りにされる存在です。



演技を披露するジャグリング部（青葉公会堂にて）

将来、社会の中核として活躍する市高生の皆さんには高校生のうちから社会とのつながりを大切にしてほしいと思います。そして、社会の一員であるという自覚は勿論、積極的な社会参画、地域貢献の意識を持って大いに活躍してください。

AI時代に大切にしたいこと ～生き生きと活躍するために～

さて、身近な地域から日本全体、世界に目を向けると、あらゆる分野でグローバル化や多様化が進み、情報化、技術革新は加速度的に進歩していることを実感します。特に人工知能(Artificial Intelligence: AI)は様々な分野で存在感を増しています。今年の10月には、人間に勝つのはまだまだ先だと言われていた囲碁で、世界トップ棋士を次々に破ったAIをさらに上回る「最強AI」が開発されたことが大きく報じられました。しかも、その最強AIは、これまでのようにプロ棋士の対戦データを一切学ばず、3日間の自己対局の繰り返しで、これまで世界トップ棋士を破ってきたAIに100戦全勝をあげました。その他、AIが防犯カメラの映像を絶えず分析し、人が路上に鞆を置いて離れたと判断すると警察が数分で駆けつけるテロ対策や宇宙望遠鏡の観測データをAIが分析し、太陽系の外にある恒星を回る惑星「系外惑星」を新たに確認したことなどが報じられ、今後様々な分野におけるAIの活用が期待されています。さらに、世界の多くのグループが2030年ごろの「汎用AI」（人間と同じくらい幅広い知性を持つAI）の実現を目指して研究を進めています。まさに皆さんは「AI時代」を生き抜くこととなります。だからこそ、今日の終業式で、人工頭脳プロジェクト「ロボットは東大に入れるか。」（略称：東ロボ）のプロジェクトディレクターである新井紀子氏のプレゼンテーション（TED提供）を見てもらいました。皆さんは、あのプレゼンから何を感じ、何を学び、何を考えましたか。AI時代を生きる人間として、今できること、これから大切にしていけるべきことを共に考えたいと思います。

◆◆「東ロボ」プロジェクト断念、その大きな理由 ◆◆

私が本校で最初に「東ロボくん」の話に触れたのは、一昨年の2学期の終業式。東ロボくんの模試の成績が横ばいだった偏差値40台から一気に57.8に伸びた時でした（「校長室の窓から」（第9号）参照）。そして、昨年の2学期の終業式では、なぜ本校が学校全体で授業改善に取り組んでいるのかということについて話しました（「校長室の窓から」（第18号）参照）。今日皆さんに見せた新井氏のプレゼンは、この二つの点を線で結ぶものでもあります。

嬉しいお電話いただきました

12月1日（金）の朝、近隣にお住まいの方から、本校生徒への感謝のお電話をいただきました。前日の11月30日（木）、自転車に乗っていたご主人が転倒され、その時通りかかった本校男子生徒3名が「大丈夫ですか」と声をかけ、自転車を起こし、ティッシュペーパーを差し上げたとのこと。本校生徒の小さな行いを温かく受け止めてくださる地域の方のお心遣いに深く感謝いたします。

「TED」とは

Technology Entertainment Design の略称で、学術・エンターテインメント・デザインなど幅広い分野の専門家による講演会を主催している米国の非営利団体。1984年の設立以来、元米国大統領のビル・クリントン、ロックバンド・U2のボノ、Apple 創業者の故スティーブ・ジョブズなど第一線で活躍する世界の著名人を講師として招いている。2006年からは講演会の模様を動画アーカイブとして全世界に無料公開中。09年以降は、カリフォルニア州ロングビーチでの年1回の講演会のほか、TEDの精神を受け継いだ講演会をフランチャイズ形式により世界各地で開催している。（知恵蔵miniの解説より）

さすが世界一流著名人の講演会。様々な視点から世界をとらえ、深く考えさせる内容は、「世界」を知るよい学びになります。スマホでも簡単に見ることができます。勿論、英語やプレゼンテーションスキルを学ぶうえでもとても参考になります。是非一度聴いてみてください。



冬花壇が完成！ 「Let's Have Fun」

今年度の冬花壇が完成しました。今回もおやじの会の皆さんが土作りをしてくださり、PTA 環境委員の皆さんが、ピオラを中心に何種類もの花苗を植えてくださいました。

日々、環境委員の皆さんが交替で水やりや雑草取りなど花壇のお手入れをしてくださっています。寒い中、本当にありがとうございます。

今年度の冬花壇のテーマは、「Let's Have Fun」。「進級する人、卒業する人、皆、置かれた場所で楽しみながら自分の可能性を切り拓いて！」という思いが込められています。花壇の立札の「自分らしく輝いて」という言葉にも保護者の皆様の深い愛情と期待が感じられます。

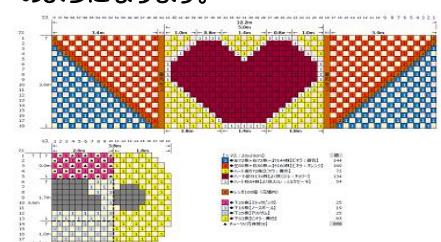
市高生の皆さん！皆さん一人ひとりが持っている自分でも気づかない潜在的な力、それはやってみて初めて発揮することができます。自分の力を信じ、チャレンジを楽しみながら、無限の可能性をどんどん切り拓いていってください。皆さんの未来をつくるのは皆さん自身です。



皆さん、お疲れ様でした。お陰様で、可憐な花が生徒の心を和ませてくれています。



何と！午後1時ごろになると水銀灯の影が、ちょうどキューピットのハートの矢のようになります。



冬の花壇の図面。花の種類は、ピオラ、スミレ、ノースピンク、アリッサム、チューリップ。

「東ロボ」プロジェクトは、人間の知的能力と比較したAIの能力を研究の目的として、国立情報学研究所が中心となって2011年からスタートし、ベンチマークとして、2016年までに大学入試センター試験で高得点をマークし、2021年には東京大学入試を突破することを目標にしています。AIは何ができて何ができないのか、その結果はAIの限界や労働代替の可能性にも繋がります。私は、スタート時からこのプロジェクトにかなりの関心を持っていました。東ロボくんは、しばらくは偏差値40台に留まっていたのですが、一昨年、一気に成績を上げ、マーク模試で5教科8科目の合計点511点(全国平均416.4点)を獲得し、偏差値57.8(前年47.3、前々年45.1)を収め、「数学ⅠA」(64.0)「数学ⅡB」(65.8)「世界史B」(66.5)の3科目で偏差値60を超えました。これは、私立大学の441大学1055学部、国公立大学の33大学39学部で合格可能性80%以上に相当する結果です。

大学入試センター試験で高得点をマークすることをベンチマークとしていた昨年のマーク模試では、5教科8科目の総計で偏差値57.1と前年とほぼ横ばいでしたが、数字上は国公立大学や有名私立大学を含む535の大学で合格率80%以上と判定されるレベルです。しかし、「東ロボ」プロジェクトは、2021年を待たずに昨年の11月、目標に掲げた東大合格を断念しました。その理由は、「東ロボくんは高校生の8割よりよい成績になったが、読解力に問題があり(東大合格に必要とされる)上位1%以上にはなれない。」というものです。確かに、東ロボくんにとって国語と英語は苦手科目であり、偏差値は常に40台にとどまっていた。

◆◆「東ロボ」プロジェクトで見えてきた新たな疑問 ◆◆

東ロボくんは、読まないし理解もしませんが、膨大な検索を通じて確率的にありそうな答えを導き出し、それが多くの場合統計的に正しいことで得点し、模試の上位20%以内に入り、東大の二次試験(世界史)の小論文(600字)でも教科書やウィキペディアから文を取り出し、組み合わせで最適化することで大抵の学生よりも優れていました。

このプロジェクトは、その研究の過程で新たな疑問にぶつかりました。それは、「文を読まず、何一つ理解することができない東ロボが、なぜ模試の成績で多くの高校生よりも上位にいるのか」、「今の子どもたちは、文章の意味を理解できているのだろうか」という疑問です。

何をやるにしても一定程度の知識が前提となる「知識基盤社会」である現代においては、文章を「読める」力が不可欠です。今、このプロジェクトは、中学校を卒業するまでに全員が教科書レベルの文章を「読める」ようにすることを目標に、「リーディングスキルテスト」(読解力テスト)による調査をとおしてその研究を進めています。

◆◆「読む」「理解する」「考える」そして「学び続ける」◆◆

「私たち人間は意味を理解することができるが、AIにはそれはできない。しかし、多くの生徒は理解せずにただ知識を詰め込んでいて、それは知識ではなくただの暗記。それはAIでもできることで、AIの方がはるかに優れている。」という新井氏の言葉がとても印象に残っています。

市高生の皆さんは、読んで理解する力を中学校までに一定程度身につけているはずですが、その力を伸ばすには、読むこと、理解すること、さらに考えることに向き合い続けることが必要です。

新井氏は、教育のあり方そのものにも言及しています。本校では、この3年間、生徒の確かな学力は勿論、これからの時代に必要な資質・能力の育成を目指し、研究チームを設置して学校全体で授業改善に取り組んでいます。

日々の授業では、自ら考えたり、仲間とともに考えて自分の考えをさらに深めたりする場面、また考えたことを様々な方法で表現する場面等があるはずです。授業の中で、読み、理解し、考え、人間の優れた力を磨いてください。そして、あらゆる場面で「深く考える」ことを大切にしてください。進歩が早く予測不可能と言われる時代を生き抜くためには、生涯にわたり「学び続ける力」も必要です。市高は、生徒も教員も学び続ける学校でありたいと思います。

生徒とPTA役員との懇談会

11月8日(水)の放課後、生徒会役員及び美化委員長(8名)とPTA役員の皆さん(3名)との懇談会を行いました。教員からは、副校長と生徒会担当の真島先教諭が同席しました。

保護者の皆さんは、日ごろ本校生徒のために何ができるかを考えながら、様々な支援をしてくださっています。言わば、生徒の「大応援団」です。そんな中、生徒の声を直接聞き、今後どのような支援をしていくのがよいかを考えたいということで、今回の懇談会が設定されました。

実は、一昨年(2015)の12月にも同様の機会を設け、そこで様々な課題や意見、多くのアイデアが出され、その一つとして直後の2学期末には美化委員主導による大掃除大会が実施され、その他、清掃用具の配備の見直し、各トイレへの「清掃の仕方」の掲示などが実現しました。

◆◆ 各クラスの清掃状況は様々 ◆◆

今回も、活発な意見交換とともに、市高生の前向きな姿勢がPTA役員の皆さんに伝わり、とても感激していらっしゃいました。

まず、清掃に関しては、今回出席した生徒のクラスの清掃状況について共有。清掃を毎日行い「教室がきれい」と言われるクラスもあれば、教室は週3回、トイレは2回としているクラスや中には週1回しか清掃をしていないクラスもあり、回数はクラスによって様々。掃除の仕方も細かいところまで丁寧に行う人もいればそうでない人もいて、生徒の意識の幅も、教員の指導の温度差もかなりあるとの発言。また、プレミアムフライデーのような清掃デーを設けて音楽をかけて全校一斉に掃除をする、自分たちではなかなか気づきにくいこともあるのでPTAの皆さんと一緒に掃除するのはどうかなど、様々なアイデアが出されました。

◆◆ 継続、そして、清掃に対する意識の啓発 ◆◆

そんな中で「継続すること」の大切さや「清掃活動の意義」にも話が及び、美化委員会と生徒会で清掃箇所を点検する、商業施設等のトイレなどで使われているような担当者のチェック表を用いる、トイレを汚さずに使用するための工夫を書いたポスターを掲示するなどの具体的な提案と合わせて、年間をとおして生徒会と美化委員会との連携により清掃について啓発活動を行う必要性なども共有できました。

PTAの役員からは、「市高生は楽しいことはもっと楽しく、そうでないことも楽しんでしまうのがよいところ。例えばお掃除ソングを軽音楽部に作ってもらい、ジャグリング部がお掃除道具を回してパフォーマンスをしたり、各部にパフォーマンスに参加してもらったりしてプロモーションビデオを作って啓発活動してみてもいい? PTAもお揃いのTシャツで参加しますよ。」といった大胆な提案もあり、和やかなうちに清掃談義が進みました。

◆◆ 勉強の妨げにならないスマートフォンの使用など ◆◆

その後、話題は「スマートフォンの使用」に移り、3年生から、1年生が終わった段階でツイッターのアカウントはすべて削除したことや3年生になると勉強が忙しくなるのでツイッターのアカウントを削除する人が多いことなどが語られると、1年生が、自分も依存していると感じていたが、先輩の話聞いてとても参考になったとの声。また、親は自分たちとは環境が違うから、親に言われてもなかなか聞く気になれないけれど、少し先に行く先輩の話は参考にできるという発言も。PTAの方からは、スマホに関しては他学年との交流が有効なのではないかとのご意見もいただきました。出席された皆さん、ありがとうございました。



ペアレントアップ講演会 ~本校講演会3本の矢~

9月27日(水)の放課後、(株)ベネッセコーポレーションの向井貴大氏をお招きし、第1回のペアレントアップ講演会を開催しました。今回のテーマは「保護者が知っておくべき入試制度 受験生に対する保護者の関わり方」。ペアレントアップ講演会とは、保護者の皆様が生徒の進路選択について学んでいく講演会です。



活躍する卒業生

11月に開催された「まちの未来づくりプログラム」(市ケ尾ユースプロジェクト)で本校生徒がお世話になっている「特定非営利法人まちと学校の未来」のフォーラムで、偶然にも本校の卒業生、白砂孝洋(しらすな たかひろ)さん(24期生)にお目にかかりました。

白砂さんは、本校から日本大学理工学部海洋建築工学科に進み、大学卒業後は建築事務所勤務を経て、現在、美しが丘にご自身の事務所「一級建築士事務所 白砂孝洋建築設計事務所」を構え、新進気鋭の建築家として活躍しています。

また、最近では愛媛県にある文化と歴史の町・内子町で、築170年の古民家ゲストハウスをとおして町おこしの仕事も始められたそうです。

(<https://camp-fire.jp/projects/view/30178>)

その他、東山田中学校のキャリア教育講座にも講師として毎年参加していらっしゃるとのこと。是非、本校の「キャリアアップ講演会」にお招きし、後輩に熱いメッセージを送っていただきたいと考えています。

【白砂さんの受賞歴】

- 2014 住まいの環境デザイン・アワード2014 東京ガス賞(我孫子の家)
- 2015 第2回サンワカンパニーデザインコンペ 優秀賞(ponopono)
第3回埼玉県環境住宅賞 奨励賞(入間の家)
- 2016 第4回家づくり大賞外回り部門(あざみ野の家)



懇談会終了後の記念写真。最初の緊張が嘘のよう。打ち解けた笑顔から、充実した懇談の様子がうかがえます。

入試制度についてもっと知りたい、子どもにどのように関わってよいか教えてほしいなど、保護者の皆様のニーズにお応えしていきたいと思えます。

これまでの「キャリアアップ」「スタディアップ」の2つの講演会に「ペアレントアップ講演会」を加え、3方面からバックアップしていきます。まさに強靱な「3本の矢」。次回は「今年度の大学入試概要」「大学入試改革」等をテーマに1月23日(火)放課後に開催予定。

市が尾ユースプロジェクト ～全国的にも注目～

11月3日（金）文化の日に開催された青葉区民まつりで、市が尾ユースプロジェクトの中間発表（掲示）のほか、アンケート調査やスタンプラリーのスタンプのデザイン募集、地元の食材で作ったサンドイッチ「さんどいっちがお」の販売など、各チームが活動しました。

また、12月9日（土）～10日（日）には、愛媛県の国立大洲青少年交流の家で開催された「第10回地域教育実践交流集会」（文部科学省委託事業）で本校生徒2名が本プロジェクトの発表を行い、大絶賛されました。そのときの発表の結びの言葉を紹介します。

「ノルウェーの劇作家ヘンリック・イブセンはこう言いました。『社会は一つの船のようなものだ。だれもが舵をとる準備をせねばならない。』と。そう！地域社会の課題を解決するのにも地域を向上させるのにも、行政だけが動いてもダメなんです！豊かなスキルや経験を多く持つ大人が活動するだけでもダメなんです！活力あふれる中高生が考えるだけでもダメなんです！それを実際に行動に起こ



中間発表（掲示）

し！実践し！地域住民を巻き込んで、またそれとともに実現を目指さないと意味がないんです！地域を変えるためには地域が動かなければならない、一人一人が舵を取って船を動かす、まさにそういうことなんです。」

この数か月の活動の様子や今回の発表を見ていて、経験や人との出会いが子どもを成長させるということをつくづく実感します。中高生に即かず離れず温かな支援をしてくださっている地域の方に深く感謝しています。今後のさらなる中高生の成長がとても楽しみです。



スタンプのデザイン募集



地元素材の「さんどいっちがお」

高校生版教育委員会 ～本校生徒が委員長～

11月14日（火）16時45分から横浜平沼高校の小ホールにて「高校生版教育委員会」が開催され、本校の佐々木亜怜さん（1年）が委員長を務めました。高校生版教育委員会は「教育委員会に高校生の声を届ける場がほしい」という「かながわハイスクール議会2015」での高校生議員の提案が実現し、一昨年度から開催されています。栄えある第1回の委員長も本校生徒が務めました。

当日は、県立高校から選出された高校生教育委員6名と教育長や県教育委員、教育局の幹部等と①豊かな学びを実現するための快適な教育環境の整備、②生徒が主体となった学校行事、③コミュニケーション能力を育成する英語教育推進の3点について協議。活発な高校生の意見に教育長自らが答える場面もありました。



教育長から委員を拝命

自転車点検 ～点検台数 453 台～

11月22日（水）の午前中、自転車通学者への安全対策の一環として、PTA学年委員による自転車点検が実施されました。当日は、神奈川県自転車商協働組合横浜北支部から恩田モータース（青葉台）、**自転車点検無事終了！** 蕪木輪業（市が尾）、サイクル&バイクかとう（中山）、スズキサイクル（中山）、露木サイクル（長津田）、フラワーサイクル（あざみ野）の6店7名のご協力を得て、453台の自転車を点検。その結果を学年委員の皆さんが点検表に記入し、手際よくハンドルにホチキスで留めていきます。合格の場合は青、要整備の場合は赤のシールを、登録シールの貼っていない場合は警告書を貼っていきます。点検をしながら協働組合の方が簡単な修理をしてくださったものもあり、ご厚意に感謝申し上げます。



「要整備」の自転車は早急に必ず整備をしてください。日常的に心がけてほしいことは、①タイヤの空気②自転車店での定期的な点検（2か月一度）③自転車も「車」だということ。県内でも中高生の自転車による大きな事故が起きています。常に安全運転を心がけましょう。

球技大会 ～熱い戦い そして 温かい豚汁～

12月22日（金）、一日日程で球技大会を行いました。クリスマスが近いこともあり、生徒はクラスTシャツの他、お揃いのサンタの帽子やトナカイのカチューシャなど、クリスマスの雰囲気も楽しんでいました。



生徒待望の豚汁！

冬の球技大会の楽しみは何と言っても保護者の皆さんが作ってくださるあったか〜い豚汁。球技大会前から各クラスや廊下にポスターが貼られ、生徒の期待は相当に高まっていました。5名の方が前日準備にあたり、当日は約60名の方が豚汁作りに参加してくださいました。生徒1200名分に職員、おかわり分を合わせて1500食。これまでのノウハウを生かした綿密な計画のおかげで混雑することなく豚汁が振る舞われました。年末のお忙しい中を本校生徒のために参加してくださった保護者の皆様に深く感謝申し上げます。



豚汁に笑顔！

【球技大会の結果】

- | | | | |
|--------|---------|--------|-------|
| 男子サッカー | ：①3年4組 | ②1年5組 | ③2年4組 |
| 女子サッカー | ：①2年7組 | ②3年2組 | ③3年3組 |
| 男子バスケ | ：①3年8組 | ②2年10組 | ③3年2組 |
| 女子バスケ | ：①3年10組 | ②2年2組 | ③2年3組 |
| 混合バレー | ：①2年8組 | ②2年10組 | ③1年5組 |
| 女子ドッジ | ：①1年10組 | ②1年9組 | ③2年6組 |



男子バスケットボールの決勝戦の開始です！